

持続可能エネルギーに関するアンケート

結果報告書

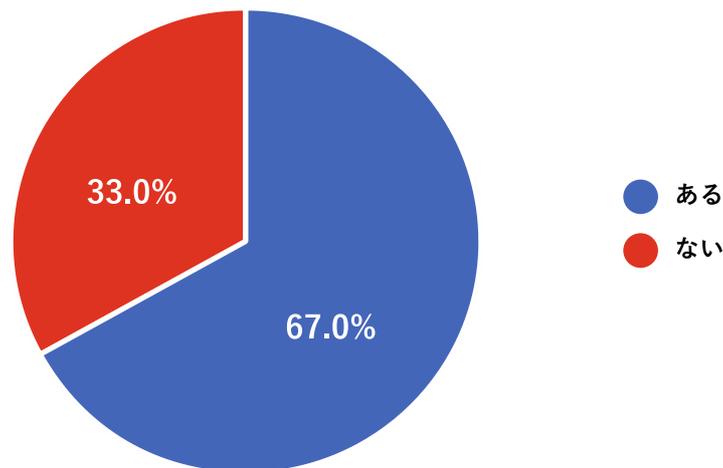
作成：原発のない世界を求める国際協議会 実行委員会

アンケート実施期間：2018年7月～12月



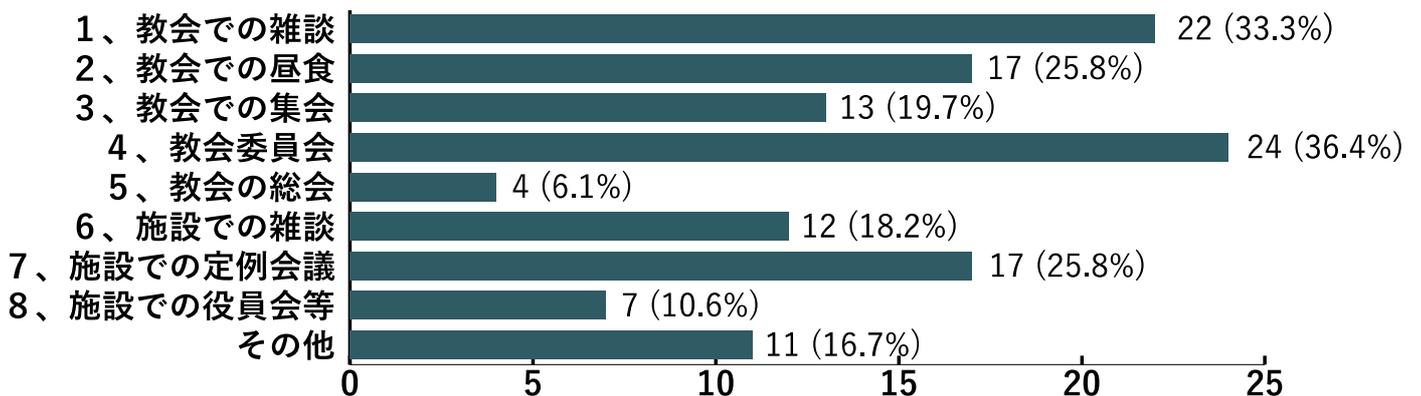
【Q1】貴教会、貴施設におきまして持続可能エネルギーについて話し合ったことはございますか？

97 件の回答



【Q2】Q1であるとお答えになられた場合、どのような場で話題となったのでしょうか？

66 件の回答

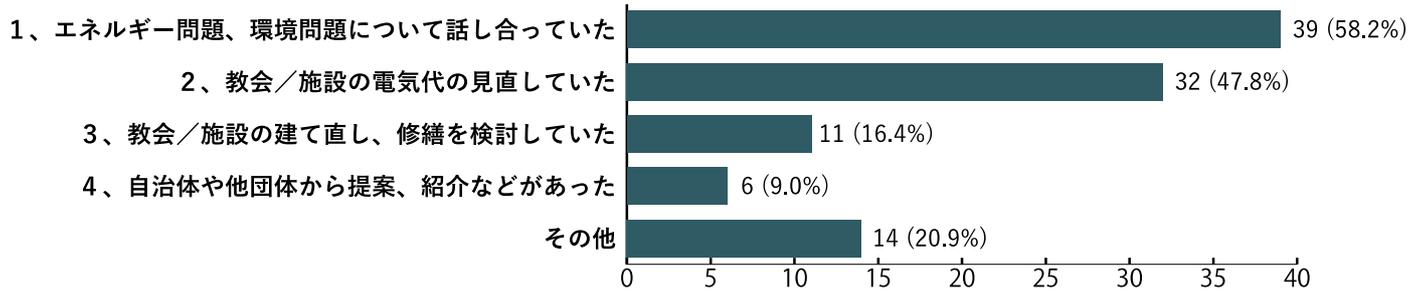


以下 回答 1

- 法人の定例会
- 神学生たちと昼食時の会話、また聖研の折など
- 法人創立 125 周年事業
- 脱原発学習会（教会での）
- 原発反対の立場から講師を招き 2 回学ぶ
- 複数回の講演会等を実施
- 牧師館/幼稚園園舎改築委員会
- 震災時の復興計画の際
- 担当課内での打ち合わせ
- 京都教区との合同礼拝でテーマとして取り上げられた。
- 『群』（教会誌編集委員会、原発に関する特集 2 回発行）、「道北 4 教会合同礼拝」の学びの時間に、テーマとして 3 回取り上げた。

【Q3】話題となった経緯は？

67 件の回答

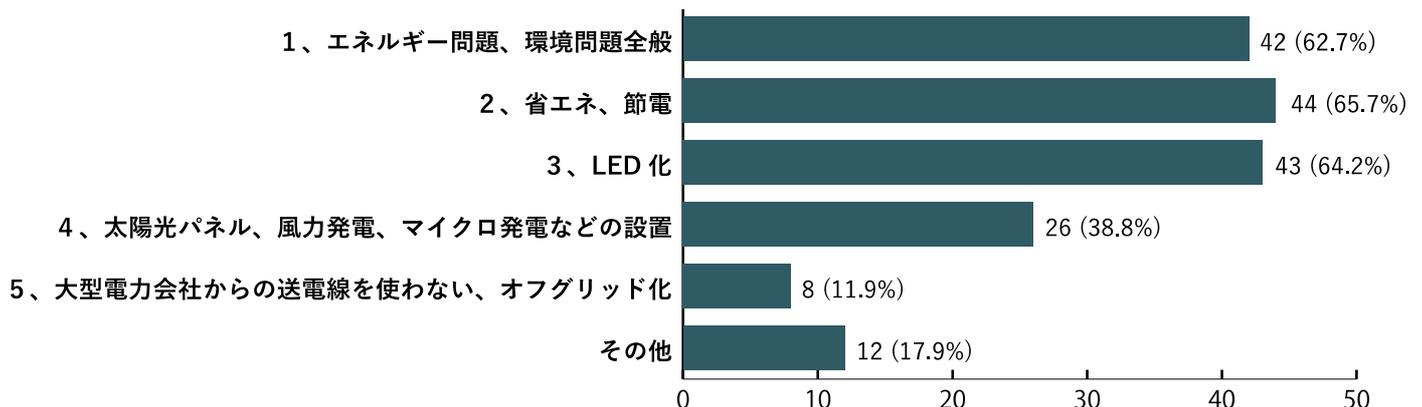


以下 回答 1

●教会内宣教部会の提案による ● 3. 1 1 の原発問題から ● 福島原発による本園の放射能汚染の状況、その後の食材について、保護者対応について ● 司祭より日本聖公会では脱原子力、脱炭素の社会を目指す決議があったと報告を受けて、その理由を聞いたところ、地球環境を破壊する。これは神の意志に反しているからだと説明された。一方的な報告であり、深い話し合いはなかった。 ● 管区から今回のアンケートの依頼が来た ● 8 月 15 日の終戦記念日礼拝で、テーマとして長崎原爆の被爆者をおぼえて祈りをささげました。その中で、エネルギー活用も含めた核廃絶について、思いを新たにしました。 ● 反核・反原発についての講演会を行った ● 原発事故避難者を招いて話を聞いた ● 蛍光灯器具が製造中止となる時期が迫ってきたから LED に変えることを話し合った ● 中部教区では「いっしょに歩こうプロジェクト中部」という組織あり。継続的に原発問題に取り組んでいる。 ● 教会委員の一人がソーラーパネル工事の業者 ● 国や大阪府からの指導に基づき省エネルギーを推進していく必要があるため ● 聖餐式の代祷項目に「原発事故の処理のため危険な作業に従事している人々のため」を入れる話し合いのとき ● 福島原発事故による様々な被害・風評が未だにあることから

【Q4】話題となった場合、具体的にどのような内容のことが話し合われたのでしょうか？

67 件の回答

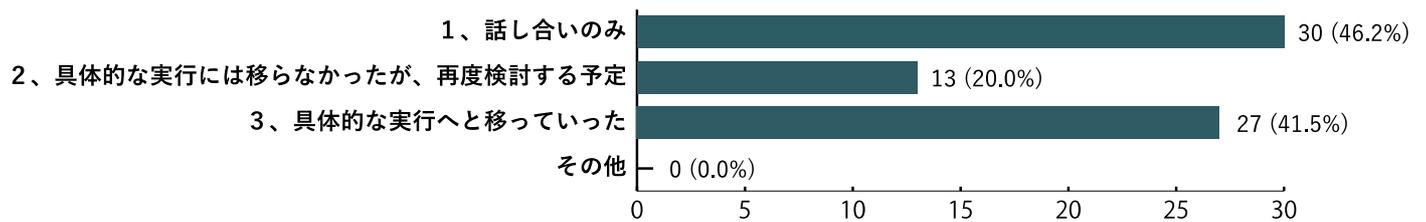


以下 回答 1

●脱原発 ● 電力会社の検討 ● 保育園の環境の整備 砂、土の入れ替え等々 ● 司祭から省エネ節電について関心を持つようにと言われた ● 持続可能エネルギーによる発電企業からの電力購入 ● 太陽光パネルなどの設置は、定住牧師不在の教会には不要 ● 国の原子力政策について ● 3. 1 1 の前後の日曜日に話題となった。 ● 原発問題 ● 原発事故が起きた時の危険性、処理などについて。 ● 原発に依存することの危険性 ● 大規模災害時の園としての対策について

【Q5】話し合いの結果

65 件の回答

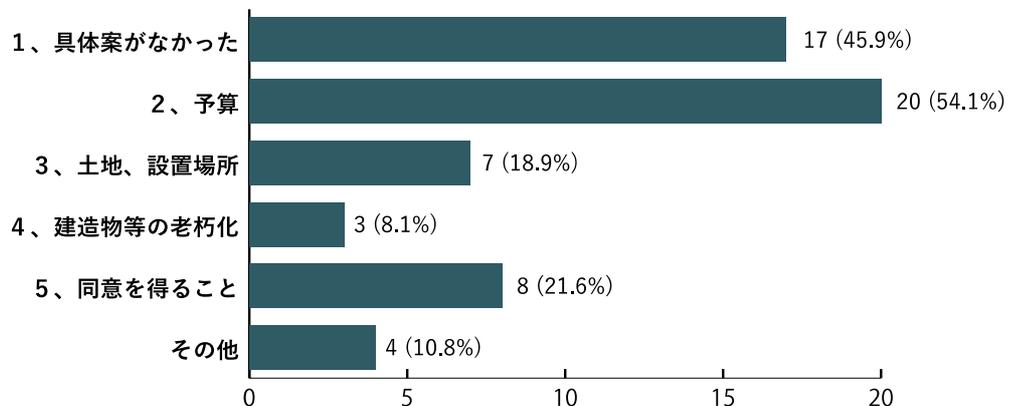


以下 回答 1

●「いっしょに歩こう！プロジェクト中部」主催の5回の講演会において、一般の参加者も含めて意見交換を行い、身の回りですぐに取り組める課題として、教区内施設での再生可能エネルギーの導入の検討に入った。
●環境の整備 砂、土の入れ替え等々 ●LED化については設備入替時に順次実施中。省エネ、節電は具体的取組は不十分（学生への節電は紙程度） ●検討したが実現性がなかったのですね断念した ●電球が切れた場合、LED球に取り替える。 ●講演会の開催、機関紙で取り上げる、日常的な話題にのぼることが増えた ●NHK EV特集やNHKスペシャル福島原発事故関連の録画DVDの貸出し

【Q6】Q5で1、2を選択された方の場合、実行に移らなかった理由は何でしょうか？

37 件の回答



以下 回答 1

●固定観念が問題 ●時間をかけて検討する必要があった ●学校設備のため ●多額な投資に対し効率的な活用が見込めなかったため

【Q7】持続可能エネルギー利用に向け、提案や計画がなされた場合、具体的に教えてください。

- 経費削減の側面が大きいですが、蛍光灯のLED化と東電から民間電力会社への変更を行った。
- 先ずは節電に努めるため施設課で毎日の電力消費量をチェックするとともに、人の使命として省エネ促進を掲げ、今後、適宜LED化も進めてゆきたい。
- 「いっしょに歩こう！プロジェクト中部」主催の5回の講演会において、一般の参加者も含めて意見交換を行い、身の回りですぐに取り組める課題として、教区内施設での再生可能エネルギーの導入の検討に入った。早期導入を目指して、複数電力供給機会社（業者）との面談を検討中。
- 教会、園舎施設をLEDに改修
- 太陽光パネルの設置。教会と施設の送電の一本化。
- 省エネ、節電のためブレーカーを取り付けたり、施設内の蛍光灯をLEDに取りかえた。
- 専門家へ相談した。地域や他施設での取り組みのリサーチをした。震災からの復興時、ドイツからの助成金を頂く際に、省エネルギーについて求められたことがきっかけで、現在のアジア学院の建物の多くが様々な対策を施されている。

建物の特徴（コイノニア・教室棟）

1. フェアトレード床材（世界初使用）

わかちあいプロジェクト松木傑先生のご紹介により、フェアトレードとFSC（Forest Stewardship Council®）の両方の認証を受けた床材を世界で最初に使用。*Forest Stewardship Council®は、「環境的に適切で社会的便益を満たし、経済的に発展可能な世界の森林経営を推進」する森林資材に適用される認証制度。

2. 太陽熱床暖房システム

食堂と教室棟の床は、太陽熱床暖房システムで暖められます。

太陽熱で暖められた不凍液が床の下に張り巡らされたパイプを通して、床をほんのりと暖めます。このシステムの経費は経産省の「再生エネルギー熱利用加速化支援対策事業」によって半額補助されています。

3. 太陽光発電

主に天井のファンを回すためのエネルギーを発電するための太陽光パネルを設置。

4. ナチュラル・エコ・クーラー

夏、食堂の隅に建つ太いパイプから食堂内の温かい空気を取り込まれ、それが常時15度ほどに保たれている床下を通ることで冷やされ、ファンに持ち上げられ天井近くの穴から冷たい空気を出し部屋を冷やします。

5. 玄関の壁面

旧本館からスリランカの女性画家ナリニ・ジャヤスリさんの描いた絵を旧本館の思い出として設置しました。

6. 黒羽刑務所製作の家具

新たに導入した家具類は、ほとんど黒羽刑務所に依頼しました。黒羽刑務所では矯正活動として木工の政策、販売をしています。その他、地域の木材を建材として使用。

7. 自然照明

屋根から光を取り込む特殊な採光照明を昼でも暗い廊下など3箇所に設置しました。

- 持続可能エネルギー主体の発電企業からの電力購入は、今後検討する。設置については、予算も全く目途がなく、無理と感じる。
- LED化については設備入替時に順次実施中。省エネ、節電は具体的取組は不十分（学生への節電は紙程度）

- 教会施設の長寿命化のためと教会内省エネのための外断熱を兼ねた壁補修を実施した。また、太陽光パネルを教会上部に設置出来ないか検討したが、構造的に困難であったため断念した。
- とりあえず、電球は交換時にすべてLED化することとした
- 電球が切れた場合、LED球に取り替える。
- 新園舎を建築するときは、すべてLEDにすること。
- 太陽光発電について検討したが予算が足らず実現しなかった。無理してでもやっておけばよかったと後悔している。
- 節電や自然・再生エネルギーの議論の前に、建て替えの時に第一候補でオール電化を提案されることが多いような気がします。そのほうが安全であるとか、導入とランニングの費用が安くできるとか、さまざまなメリットを言われることが多いかと思えます(都市ガスのガス管が古くから使われている市街地などでは、地震でガスが止まると復旧に時間がかかる、間取りの関係でキッチンの位置が奥まっていると熱かこもって熱い、などの理由でお勧めされることが多いような気がします)。オール電化と自然再生エネルギーの活用がセットで話し合われたらいいのですが、費用と工期に限りがある場合、なかなか難しいものがあります。実際に建て替えを経験して、保育園など大きな施設を抱える教会で建て替えたら、オール電化にする方が「余計な」費用が抑えられるような仕組みになっているような気がします(牧師館をオール電化にしなかったために、この費用が発生したのでは?と考えられる請求があったので。確認しても、どこでもこの費用は請求されます、との回答があったのですが、いまいちしっくりきいていません。)
- 太陽光発電設備の設置を検討した
- 講演会の開催、機関紙で取り上げる、日常的な話題にのぼることが増えた
- NHK EV特集やNHKスペシャル福島原発事故関連の録画DVDの貸出し
- 関電から大阪ガスに変えた。
- 勉強会に参加
- 質問の主旨とはズレると思われませんが、・毎主日、放射能汚染にさらされる人びとを覚えて代祷を捧げている。・毎年「3月11日」の期間は「忘れまい!」との主旨のポスターを地域向けに掲示している。
- LED化は実行に移った
- 沖縄に赴任してすぐ、県議会議員や県の主だった方々に太陽エネルギーの活用を訴えたが、当時(今も)は政府が原発による比重を重要視していたため、補助金が得られないとの返事が多かった。たぶん今も変わらないでしょう。
- LED化はしている。原発立地場所ということもあり、原発事故等の場合の対策が園に要求されて来るが、そもそも逃げることもすら困難なので、私たちにとっての持続可能という意味は、町全体の人々が安心して生きていける環境を整えるということの意味しています。そのための意識付けと話題化から始めています。

【Q8】「原発のない世界を求める国際協議会」開催に向けてあなたが期待する事をお書きください。

- 自分たちが少しがまんすれば、生かせるいのち、守ることのできるいのちがあることを発信していきたい。
- 福島第一原子力発電所爆発事故を風化させない取組を期待いたします。
- 子孫のためには原発廃止が must と思うので、原発の代替エネルギー源を早急に確定し、計画性をもって（含むタイムスケジュール）取り組んで欲しい。
- 「教会」内にとどまらず、日本社会全体への発信度を高めたい。
- 原発避難地域からの避難者は、原発で働く人と重なる場合があります。教条的な原発反対ではなく、具体的な聖公会の活動による出会いからの発信を基に提言、行動願います。
- 「原発のない世界を求める」ことが、実際に利用可能で持続可能な代替エネルギーについてや、これまでの消費社会とは異なる新たな生活様式や価値観の提案やヴィジョンを指し示すことにつながればと思います。
- 子どもの未来を考える責務のある私たちです。常日頃から節電をはじめ環境保護について、私たちのできること、子どもたちに伝えるべきことを考えています。“聖公会”が組織として指標を示してくれると幸いである。
- 原発の行き着先は福島での事故が人間の営みを根底から奪うことになった現実を直視。改めて人が生きる心の豊かさに何が大切であったかを原発事故は明確に答えを出してくれた。人はパンのみに生きることは出来ないとつくづく思います。
- 原発の廃止を強く求めるとともに持続可能エネルギー利用を積極的に取り組む。
- 原発による放射性廃棄物が処理できないにも拘らず、原発を継続することは、未来に対して無責任極まりないものと思います。原発そのものの危険性ととも、このことを、経済的な側面も含めてとらえ、決して人類に寄与するものではないことを明らかにしていってほしいと考えます。
- 1. 原発の即時停止 代替エネルギー開発の本格化
2. 核エネルギーへの副産物及び原発による放射線物質の国際的研究と処理方法
3. 市民生活の有り方の提言とそれに伴う産業構造の見直し
- 「地球温暖化」と「より快適な生活」のために、今後益々電気の需要は増えると思います。そのことと原発依存が結びつく側面を考える時、自分たちの足元を見つめるライフスタイルのあり方が一つの大切なテーマになると思います。
- オフグリッドに向けた教会の実際的な行動をすること
- 問題・課題を多く抱える原発の新設、維持をしようとする意図はどこにあるのか解明してほしい。 具体的生活スタイルの提案があると良い。
- 原発のない世界を求め続けていくこと。（アンケートや署名） ひとりの力では弱いので組織として訴えていく。
- エネルギーとは何か、私たちが適切に用いるとはどういうことかをもっと考え、議論する必要がある。
- 電力は必要不可欠なものであるので、ただ単に「原発反対」ではなく、それに替わる具体的かつ実現可能な案を対案として示していただきたい。
- 教会が率先して再生可能エネルギーへの取り組みをするように教会などの建築に補助金を出して欲しい。
- 当学院も 3.11 の際に福島原発事故の影響を受けました。以降、地域の人々と共に現在も放射能問題に取り組んでいます。聖公会の皆さまにも、原発問題、放射能問題についての取り組みを積極的に継続されることを願っております。

- ◆福島県では東日本大震災による原子力発電所事故により被災した経緯があり、原子力災害の脅威を身近な出来事として捉えております。（▶人命尊重、人々の平和という視点を持ち、原子力発電に依存することのない社会を構築すべきであることを訴え続けること）
- ◆エネルギー争奪戦と言われるように、自国の利益のためにエネルギーを奪い合う状況が続いています。（▶自国の利益のために他国を犠牲にし、ひいては戦争の火種となりかねない。平和な世界づくりを訴え続けること）
- ◆2018年夏は電力不足が懸念されていましたが、太陽光発電システムの電力供給により深刻な状況には陥りませんでした。（▶本来あるべき方向性を共有し、人々の意識改革を促進していくこと）
- ◆次世代の人類、人々が暮らす地球環境を保全することは現代社会に生きる私たちの責務です。（▶地球環境保全に係る啓蒙活動を継続的に実施していくこと）
- 現在稼働している原発は59基中の7基。一方で省エネルギー化、持続可能なエネルギーの利用は常識となっているが、これらは地球温暖化対策といった側面が大きい。まずは、協議会開催の目的、必要性を明示し、論点を明確にした上での開催とし、結果として統一したビジョンを打ち出し、具体的な活動内容を提示してくれることを期待する。
- 是非、全体として結果をまとめて、広く発表してほしい。具体的に実行できる案と予算などを明らかにしてほしい。どうすればいいかわからず、実行していない場合も多いと思う。国の持続可能エネルギーへの積極的取り組みを期待する。
- 回答ではありませんが、今まで考える事もなかったもので、討議する機会を与えて下さった事に感謝します。再生可能エネルギーの重要性は痛感しておりますので、小さな教会や信徒レベルでも、できる策があれば教えて下さい。
- ・福島の実現に目を向ける事。人類の力で問題解決できない事（核）を後世に残さない。
・脱原発を果たした、ドイツの例。考え方を広く発信。
- 原発ばかりでなく地球環境の悪化をもっと具体的に把握し、会社などではなく身近な所から対処するための話し合い、小さな行動から始めて欲しい
- 具体的な成果が得られること
- 原発の恐ろしさや、将来に残す負の財産についてどんどん発信して行って欲しい。
- 原発のない世界の実現に向けて、依って立つべき聖書の箇所を挙げつつ、聖公会が果たすべき役割や取り組みについて話し合い、具体化すること。
- 教会、施設の屋根に太陽光発電や、風力発電を備える。災害対応にもなる。
- 日本聖公会の組織全体としての取り組みが少しずつであっても個人レベルにまで響き、原発のない世界へみなが向かって行けるように具体的な提案を各教会、施設、そして個人一人一人へ出せるような協議会となることを願っています。
- 原発のない世界実現に向けての具体的な行動指針の発信
- ①福島の事故以来莫大なお金を使っている排水処理、解体・廃棄作業を勘案するとそれを国民に負担させることに反対。すなわち事故を100%起こさない原発は作れないのなら新たに作るのをやめなさい。
②稼働後に出る核廃棄物の処理問題を解決できないうちは作らない、稼働もさせない。
- 原発がなくなり、再生可能エネルギーが安定的に供給されるようになるための具体策が検討され、実行へとつながっていくことを期待します。
- *「原発のない世界を求めて」発信し活動する場合、聖公会の諸教会やキリスト教会のみでなく、他宗教、市民グループ、自治体など、一般社会とのより広い連携・協働を十分に視野に入れること。
*同時に、キリスト教信仰に裏付けられた発信や活動を展開するため、聖書にその裏付けを求め、キリスト者としてその理解を、世界観・人間観として共有できるように努めること。

*老若男女など、できる限り、さまざまに立場の異なった顔ぶれの参加が得られること。また、「原発のない世界を求めない」立場の主張やその理由に耳を傾ける機会を設けること。

*協議会の一つの実りとして、参加者自身による「声明」を文書に表わし、公表すること。その声明文において、可能な限り、具体的な提言を掲げること。その提言の中に、自分たちの日常生活や、教会・教区・日本聖公会の日常的な運営と活動に関わるものが含まれること。（以上、個人としての回答）

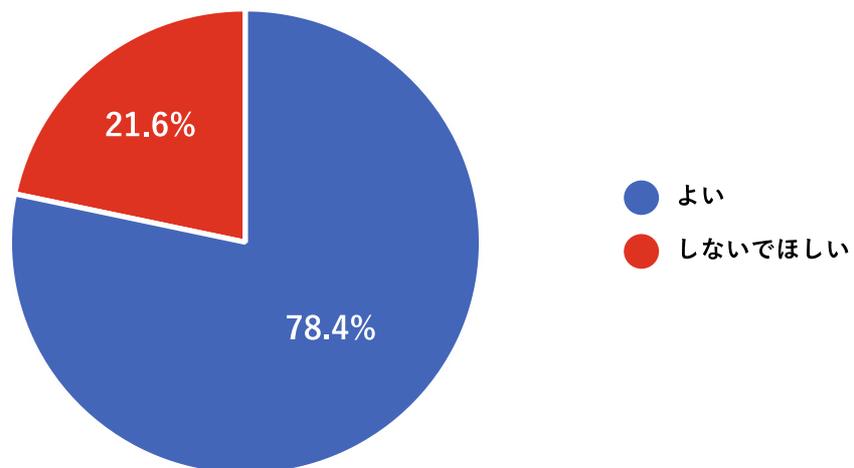
- 日本の国の原発再稼働がなされないよう、国内外にアピールをする
- 主日礼拝で指定日を設け、当日の信施等の協議会への開催献金で信徒の意識付けを図れたらと思う。
- 現在の気候変動は緊急の課題となっている。原発がなくても気候変動を抑えることができることをわかりやすくアピールしてほしい。
- 災害発生時に教会が地域への支援・貢献としてオフグリッド拠点となるための具体的な方法の提案や事例紹介などの情報提供
- 東日本大震災による福島第一原発事故という世界的な事故を起こしてなお、トップセールスで原発を海外に売り歩く日本政府の姿には失望しか感じません。日本の事故を目の当たりにしてドイツなど脱原発に舵を切る国もある中、日本の未来によりいっそうの不安を感じる次第です。脱原発を叫ぶ団体は数多くありますが、それぞれが別々で行動を起こしている気がします。同じ考えを持つ者同士を集結できるような国際協議会となることを期待しております。
- 未来の「いのち」にかかわる課題であり、教区・教会で話し合えるわかりやすい提言やミッションステートメントが表明されることを期待します。
- 原発事故被害者の実情を知り（話を聞き）苦難の中にある人々とともに考えていくこと
- 再生エネルギーについて話し合ったことがないので指導を受けたいと考える。とくに教会建て替えを考えている中で、アドバイスがほしい。
- 水力発電（揚水型発電）所を増やす。太陽光発電の設置を勧める。
- 一回限りで話題を作り、メディアに取り上げてもらう事で終わるのではなく、その協議会をベースに各教会、各個人が出来ることを提案し、そのフォローを10年間は最低情報提供してゆくような地道な継続活動が大切。結果を各教会、各家庭、個人レベル迄落として情報を共有し、継続していくことが必要。10年くらいはとりくむつもりで、かつ、教会組織内にこもらずに社会へどう発信してゆくかも考えて。
- 一刻も早く、この地上から原発が一掃されますよう、貴協議会、並びに聖公会が世界を牽引し、主導的に原発廃止へと導いて行って頂きたいです。先ず、日本聖公会が日本政府へ積極的に働き掛け、世論の渦を引き起こして頂きたいと思えます。私達も出来ることがあれば喜んで協力を致します。宜しくお願い致します。
- ・1996年の日本聖公会の戦責告白を前提にしたい。・その上で、「スリーマイル」「チェルノブイリ」「ヒロシマ、ナガサキ」「フクシマ」「核兵器」を視野に入れたい。・核保有国の聖公会代表を必ず招聘したい。・他宗派、他宗者にも参加を呼びかけたい。・日本聖公会全教会、信徒に開催費用のカンパを呼びかけたい。
- ①確実に反原発の運動につながる協議会出会うほしい。②幌延の核廃棄物貯蔵施設建設問題にも目を向けてほしい。
- （あくまで個人的な意見ですが）発展途上国、特にアフリカでの再生可能エネルギー利用の促進、アフリカの各聖公会との協力。各教会、信徒レベルでの再生可能エネルギー利用を促進するプログラムの検討。まず、教会として実際に取り組んでいることを示すことも大切。
- 福島での原発事故の処理の現実が報道されない現状の中で、多くの作業員が危険な作業に従事していると思えます。その現実を伝えることは大きな役割の一つになるのではないのでしょうか。

- とにかく世界中から原発をなくすこと。代替え案として、それぞれの立地条件の中で検討し、実現に向けて国連を中心に協力体制を整えていくことを夢見ています。
- 持続可能社会の実現のために、教会がそのモデルとして、オフグリッド教会を実現するために知恵を出し合う。また世界の聖公会が持続可能教会としての教会の在り方を模索し実践できるように協力して取り組む
- 原発立地場所にある教会として、原発の危険性を肌で感じています。教会が、持続可能社会の実現のために、個々の教会が果たすべき役割について分かち合えたらと思います。また世界の聖公会が、地域教会の苦悩を知り、持続可能社会に向けて、オフグリッド教会実現を実行できるよう協力し合えたらと思います。
- 乳幼児と共に過ごす施設は、原発の危険性を一番シビアに認識しなければいけません。福井では関心が低いのが現状です。教会施設として、積極的にオフグリッド化し、持続可能社会の実現に向けて、世界中の教会、施設と協力していければと思います。
- 世界規模の問題であり、原発立地地域の問題なので、全世界の教会、施設がオフグリッド化し、持続可能社会の実現を目指す中で、乳幼児の命を守ってほしい。そのために協力し合いたい。

ご回答の公表について

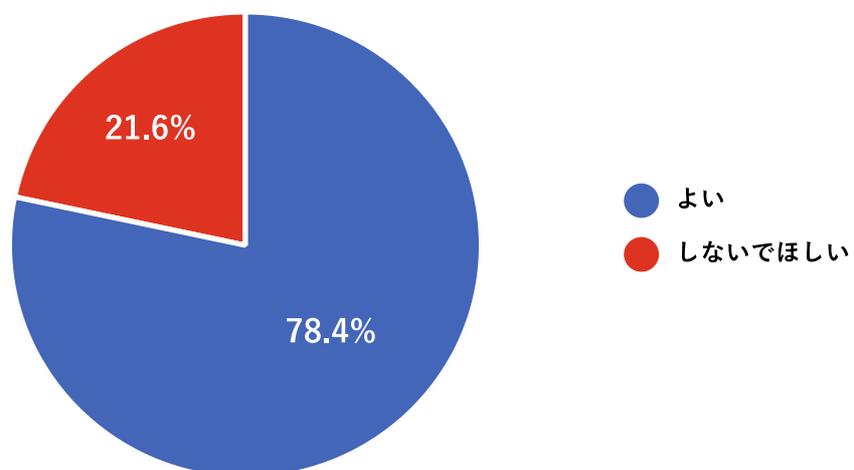
【教会、施設名を公開しても】

97 件の回答



【Q7、8について、支障の無い範囲で公表しても】

97 件の回答



<アンケートにご協力くださった教会・施設> *順不同

旭川聖マルコ教会／日本聖公会管区事務所／社会福祉法人新生会 榛名憩の園／公益財団法人 聖バルナバ病院／日本聖公会中部教区センター／深川愛の園／土浦聖バルナバ教会／ウイリアムス神学館／京都聖マリア教会／大津聖マリア教会／社会福祉法人聖救主福祉会／釧路聖パウロ教会／聖ニコラス天使園／小名浜聖テモテ教会／松本聖十字教会／聖十字幼稚園／横浜山手聖公会／函館聖ヨハネ教会／松戸聖パウロ教会／聖光幼稚園／社会福祉法人 神愛会／日本聖公会 長崎聖三一教会／川越基督教会／聖アンデレ保育園／立教新座中高聖パウロ礼拝堂／学校法人 アジア学院／学校法人 聖公会神学院／佐世保復活教会／郡山聖ペテロ聖パウロ教会／千葉復活教会／甲府聖オーガスチン教会／直方キリスト教会／小倉インマヌエル教会／徳島聖テモテ教会／社会福祉法人鈴鹿聖十字会／聖マーガレット教会／聖パトリック教会／小金井聖公会／新生礼拝堂／深川聖三一教会／聖光教会／八戸聖ルカ教会／釜石神愛教会／仙台基督教会／(宗) 東豊中聖ミカエル教会／神田キリスト教会／学校法人立教学院／聖ルシヤ教会／名古屋聖ステパノ教会／名古屋学生青年センター／四日市聖アンデレ教会／桑名エピファニー教会／米子聖ニコラス教会／葛飾茨十字教会／京都教区／帯広聖公会／川口基督教会／大阪聖ヨハネ教会／大阪教区／鳥取聖ルカ教会／高槻聖マリア教会／石橋聖トマス教会／尼崎聖ステパノ教会／愛知聖ルカ教会／鴨川聖フランシス教会／プール学院短期大学／名古屋聖ヨハネ教会／旭川聖マルコ教会／東京聖テモテ教会／新宮聖公会／名護聖ヨハネ教会／福井聖三一教会／敦賀キリスト教会／幼保連携型認定子ども園聖三一幼稚園(福井)／晴明保育園

上記のほか、非公表希望の方にもご協力いただきました。ありがとうございました。

<お礼の言葉と総評>

アンケートにご協力頂き感謝いたします。ご回答いただきました中で、施設整備に伴うLED化等の節電が多く見られました。また電力会社の切り替えなど、経済的側面からの事例もいくつかありました。脱原発と自然エネルギー化を広く、強く発信することの重要性も提案されていました。そしてまた具体的な取り組みの提案が期待されていることを感じる事が出来ました。

持続可能な自然エネルギーの自給教会、施設の重要性について更に学び、具体的な取り組みを目指していく必要性を感じるアンケート結果となったように思います。2019年5月に開催される「原発のない世界を求める国際協議会」開催に当たり、このアンケート結果が生かせるように準備したいと思います。

(2019年1月 原発のない世界を求める国際協議会 実行委員会記)